

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素よりJA相馬村フルーツステーションをご利用いただき誠にありがとうございます。

5月の果実販売動向ですが、イチゴについては最終盤となり、総体量は減少し、消費地の気温上昇に伴い品質不安もあるものの、継続的な引き合いが見られ、荷動きについては順調に推移しました。

スイカについては前半に熊本県産を中心に小玉傾向の入荷となり、その為総体量の少ない2L・1L級の引き合いが特に強く、高値基調の販売となりました。後半にかけて熊本県産の入荷がピークを越え、関東・愛知・長崎県産などの入荷が始まっていき、売場の拡大は進んでいきました。ただし価格に関しては前半が高値基調だった分、やや弱含みでの推移となりました。

メロンについては高値基調での販売となり、入荷量もまだ多くな

いことから荷動きは緩慢なものとなりました。

リンゴにつきましては最終盤を迎えたサンふじを中心に総体的な流通量が減少する中、有袋ふじへの切り替えは順調に進み、安定した入荷となりました。引き合いが強いのは小玉中心となり、32玉以上の大玉に関しては売価が高めに設定され、入荷比率も高かったことから荷動きが鈍化傾向となり、全体的に価格は保合い傾向での推移でしたが、一部の量販店などでは大玉の価格を下げての販売や、有袋ジョナゴールド中心の販売も見られました。

シナノゴールドに関しては黄色品種の総体量の少なさやサンふじの減少に伴って安定して引き合いがあり、堅調な価格推移となりました。

今後はスイカ・メロンに関しては入荷量・売場の拡大共に増加傾

向が続くと見込まれ、スイカに関しては流通量の増加の為、メロンに関しては荷動きの鈍い状況の為、どちらも価格はやや弱含み傾向と思われれます。

売場に関してはスイカ・メロンを中心にキウイ・バナナ等輸入果実で多く構成されている中、リンゴに関しては有袋ふじを中心に総体数量・売場面積ともに減少傾向となり、大玉は売価上昇も相まって引き合いは弱い状況が続く見通しです。ただし40玉・46玉の小玉は不足感から堅調な販売が予想されます。

当JAでは王林に関しては5月末をもって出荷が終了となり、今後は有袋ふじ・有袋ジョナゴールド・サンふじ・シナノゴールドのスマートフレッシュ商品のみ販売となります。

売場の縮小が進んでいくことが予想される中、引き続き品質調査を行いながら、市場の動向に注視しつつ、有利販売を目指してまいります。

JA全農あおもりデータ（6／1 累計）

品 種	サンふじ	ふ じ	王 林	ジョナ	シナノゴールド	その他	合 計
単 価 (円)	2,662	4,728	3,203	3,864	3,267	2,736	2,809
前 年 比 (%)	80	96	94	98	87	92	85
販売数量 (箱)	5,531,813	374,781	675,133	165,551	196,085	3,329,447	10,242,811
前 年 比 (%)	117	126	101	75	117	107	113

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



ふじの果実肥大状況

6月1日の調査では管内平均で21.7mmとなり、昨年よりも2mm程大きく推移しています。また、平年比は138.2%となり、6月上旬の調査では歴代1位を記録しました。その他、王林・つがるを含めた6月10日現在の状況は表1を参照して下さい。

今後のりんご作業

(6月15日～7月15日)

●見直し摘果

花芽形成前の6月末を目標に見直し摘果を進め、適正着果に努めましょう。特に、ふじの場合は過着果にすると隔年結果を起こしやすいので、成らせ過ぎないように十分注意して下さい。

●追肥は今月末まで

追肥を計画している園地では、樹勢や着果量に合わせて、6月末までに実施しましょう。

●徒長枝（バヤ）整理

徒長枝整理は薬剤の通りを良くし、葉や果実を病害虫から守ることに繋がります。徒長枝が混み合うとハダニ類のすみかにもなるため、不要な徒長枝は剪去しましょう。

袋かけは7月10日頃をめどに

袋かけは早いほど着色向上の効果が高くなります。そのため、遅くとも7月10日頃をめどに袋かけを終了し、被袋期間を75日以上確保しましょう。また、袋かけ前の

薬剤散布は丁寧に行い、散布後5日以上経過してから袋をかける場合は、実洗いを行いましょう。

注意すべき病害虫について

・腐らん病

発生が見られています。見つけ次第速やかに処置して下さい。

・輪紋病

伝染源は枝幹部に形成されたいぼ皮病斑です。新梢及び1年枝での感染は6月上旬～8月中旬頃まで続き、7月に最も多くなります。

・モモシクイガ

果実への侵入を防ぐために今後の防除が重要です。7月初めにピレスロイド剤を使用して下さい。

水稻について

移植後の水管理は、天候の良い日は2～3cmの浅水にし、分けつを促進して下さい。低温が続く時は5～6cmのやや深水にして稲を低温から守りましょう。

入水は夕方または早朝に行い、日中は田んぼの水をしつかり暖めましょう。また、入水の際は除草剤の処理層が壊れないよう静かに入水を行って下さい。

表1：管内の品種別りんご肥大状況（6月10日調査）

品種	横径（単位：ミリ）					
	湯口	紙漉沢	相馬	平均	昨年	平年
ふじ	32.8	31.5	31.0	31.8	27.6	24.4
王林	37.5	33.0	33.9	34.8	29.2	26.6
つがる	34.8	30.7	34.0	33.2	28.0	26.8

※平年値は過去10年間平均値

●りんご病害虫防除暦（第8回目～第9回目）

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
8	500㍓	7月上旬	オキシラン イカズチWDG ウララDF カルシウム剤	500倍 1500倍 4000倍	○輪紋病の重要防除時期となるので、有効な薬剤を降雨前に散布してください。
9	500㍓	7月中旬	キノンドー顆水 ユニックス顆水 トランスフォームF カルシウム剤	1000倍 2000倍 4000倍	○褐斑病対策としてユニックス顆水2000倍を加用してください。

青年部通信

事務局 佐々木 善久



青年部では、5月15日にもち米栽培の中でもメインともいえる田植えをしました。いつも田んぼから見える美しい岩木山を確認することはできませんでしたが、雨降りの中作業した5年前の思い出話に花が咲くなど、楽しく作業が進みました。

順調に育った苗を見る部員からは「今年は豊作が期待できるのでは」と声があがりました。一面全て植え終わると、機械では植えられない部分に一つ一つ丁寧に手植えをする宮川貴彦部長の姿が。「これが青年部最後の田植えだな」部長は今年で勇退することから、本年産もち米も良い出来になって



青年部最後の田植えに努めた
宮川部長



苗箱もリレーで繋ぐ

ほしいと、願いを込めていました。また今年は、部員の子も達が手伝いに来てくれました。作業をこなしながらも、子ども達の一生懸命な姿を見つめる部員の顔はいつもより柔らかい表情に見え、「いけば米作りの将来は安泰だな」と、笑いが起こりました。手伝ってくれた子ども達が、将来、相馬



地区の農業を支える人材となってくれたらと思います。

田植えと同じ日に相馬こども園の草刈りと、畑の耕起もおこないました。耕起作業は、女性部が園児らと野菜を育てる重要な土台作り。青年部でも、食育活動の一環として毎年取組んでいます。「がんばれー」と、窓から見守る園児らの姿はとてもかわいらしく、部員らはパワーが湧いたのではないのでしょうか。

今後も、食育活動や農業を次世代へ繋げていく活動、企画をおこなっていききたいと思います。

ライスロマンクラブの経験を活かし



今年より、青年部のもち米事業におけるオペレーターが世代交代となりました。昨年まで務めていた福島さんは、操作歴10年のベテラン！今年からは、湯口の溝江将也さんが頑張っています。溝江さんは、ライスロマンクラブにも所属していることから、今後も青年部及びライスロマンクラブでたくさん活躍したいと意気込んでいました。



きれいになっていく園内



野菜植えまであと少し